

2017 年度活動報告 現代日本プログラム (CJP) の日本語授業

阿部 美恵子 (関西学院大学日本語教育センター)

1. 現代日本プログラム

現代日本プログラム (CJP: Contemporary Japan Program) は、海外協定校から 1 セメスター (4 か月)、あるいは 2 セメスター (10 か月) の短期留学をする交換学生のためのプログラムとして、2016 年秋学期より新たに立ち上げたものである。CJP では、留学目的に合わせて①日本語専攻 (JLT: Japanese Language Track) か、②現代日本専攻 (MJT: Modern Japan Track) を選択する。秋学期から春学期にかけて 2 セメスター在籍する学生は、2 月～3 月に約 4 週間の冬期集中授業を履修する点が大きな特徴としてあげられる。また、英語や日本語で開講される多彩な選択科目があることも特徴の 1 つである。

2. 日本語専攻 (JLT) と現代日本専攻 (MJT) の違い

JLT は日本語の学習が留学の主目的である学生が選択する専攻で、来日時にひらがな・カタカナが読み書きできることが、選択の要件である。JLT は日本語科目が必修で、必修科目の 5 単位と選択科目の「漢字・語彙」1 単位の計 6 単位の履修が課される。その他、日本語や英語で開講される選択科目を受講し、合計 10～16 単位を履修する。また、冬期集中期間には、日本語の選択科目や英語で開講される選択科目から 2 単位履修することができる。

MJT は日本研究を深めることが留学の主目的である学生が選択する専攻で、日本語科目が必修ではないため、日本語の要件はない。英語で開講される「現代日本演習」2 単位が必修で、その他、日本語や英語で開講される選択科目を受講し、合計 10～16 単位の履修が課される。冬期集中期間には、日本語科目は履修できず、英語で開講される選択科目から 2 単位履修する。

3. 日本語授業において目指す学生像

CJP の日本語授業では、本学での留学期間中の日本語学習において、下記の 3 点を目指して学習に取り組んでほしいと考えている。

- ①自らの日本語の学びを自律的に創造できる
- ②日本語で積極的に他者と交わることで、考え方の多様性を受容することができる
- ③日本語を学ぶ意義を、自分の人生・生活の中に見いだすことができる

4. 日本語のレベル

JLT も MJT もプレースメントテストの受験は必須で、それによって7つのレベルにわけられる(表1)。決められたレベルによって、履修できる日本語科目が決定する。

来日前に日本語能力試験 N1 に合格している場合、あるいは、プレースメントテストの結果から N1 相当の高い日本語力を持っていると認められた交換学生は、RCA テスト (Regular Course Aptitude Test) を受験し、合格すれば、本学の日本人学生や正規留学生と一緒に、一般授業を履修できる。

表1 レベルの目安

日本語レベル	本学のレベル分け
初級	レベルプレ1
	レベル1
初中級	レベル2
中級	レベル3
	レベル4
上級	レベル5
	レベル6
超級	一般授業履修

表2 必修科目(JLT)

科目名	対象レベル
総合日本語プレ1	プレ1
総合日本語1	1
総合日本語2	2
総合日本語3	3
総合日本語4	4
総合日本語5	5
総合日本語6	6
会話・聴解3	3
会話・聴解4	4
調査・報告5	5
調査・報告6	6

表4 選択科目(JLT・MJT)

科目名	対象レベル
漢字・語彙プレ1	プレ1～1
漢字・語彙1	プレ1～2
漢字・語彙2	1～3
漢字・語彙3	2～4
漢字・語彙4	3～5
漢字・語彙5	4～6
漢字・語彙6	5～6
表現法A	4以上
表現法B	3～6
表現法C	2～4
読解A	4以上
読解B	4以上
読解C	2～3
文章表現A	4以上
文章表現B	3～6
文章表現C	1～2
聴解A	4～6
聴解B	3～6
口頭表現A	5以上
口頭表現B	3～4
口頭表現C	1～2
日本文化A	4以上
日本文化B	プレ1～3
アカデミック日本語	一般授業履修 ※1学期目のみ

5. 春・秋学期の日本語科目

JLT の必修科目として「総合日本語プレ1～6」「会話・聴解3～4」「調査・報告5～6」の計11科目(表2)、MJT の学生のみが履修できる選択科目として「レギュラープレ1A、1B」「レギュラー1～2」の計4科目(表3)を開講した。また、両専攻の学生が履修できる選択科目として「漢字・語彙プレ1～6」「表現法A～C」「読解A～C」「文章表現A～C」「聴解A～B」「口頭表現A～C」「日本文化A～B」「アカデミック日本語」の計24科目(表4)を開講した。

いずれの科目においても、3で述べた「日本語授業において目指す学生像」を意識した授業設計をしている。

本稿では各授業の内容について触れていない。昨年度の各授業の概要が『関西学院大学日本語教育センター紀要』第6号の活動報告に掲載されているため、ぜひご覧いただきたい。

表3 選択科目(MJT)

科目名	対象レベル
レギュラープレ1A	プレ1
レギュラープレ1B	プレ1
レギュラー1	1
レギュラー2	2

6. 冬期集中期間の日本語科目

10 か月という短期の交換留学期間において、多くの大学で春休みに入る2～3月の約2か月が空白期間となるのは、もったいない。そのため、本プログラムでは約4週間の冬期集中期間として、日本語科目が履修できるようになっている。JLTの学生が履修できる日本語の選択科目は表5のとおりである。

冬期集中期間の日本語科目は、「インディペンデントスタディ」「プロジェクトワーク」が大きな2本柱である。「インディペンデントスタディ」は、「自分で学習目標を設定し、そのための学習計画を立て、その計画を実行できるようになること」、つまり「自律学習ができるようになること」を目指し、秋学期の自分の学習を振り返り、自分の弱点を知り、重点的に復習する。「プロジェクトワーク」は、「学生が主体となり、課題達成のために必要な、総合的な日本語力を身につけること」を目指している。来日直後である秋学期の、新しい学習項目の習得にのみ目が行きがちな学習から、冬期集中期間を落ち着いて自分の日本語をふりかえる機会としてほしいと考え、これらの科目を開講した。

いずれの科目も2016年秋のプログラム改編により新たに開講した新規科目であるため、教員も試行錯誤しながら取り組んでいる。特に「インディペンデントスタディ」は、多くの教員にとっても学習者にとってもこれまで経験したことがない授業スタイルだったため、混乱があった。「自律学習」を目指していたが、学習者には「自習」と受けとられてしまったのではないかという反省がある。また、教員側にも「インディペンデントスタディ」の理念の共有が不足していた。試行錯誤した初年度(2016年度)の冬期集中期間の各日本語授業については、本号の活動報告をご覧いただきたい。

2016年度の反省をふまえ、2017年度は、理念を共有するためのミーティングを多く持つことにした。また、それとともに、学習者が学習目標を設定し、具体的な計画を立てるために、どのようなアドバイジングやチュートリアルを行っていくか、教員も学びを深めていきたいと考えている。

表5 冬期集中期間・選択科目(JLT)

科目名	対象レベル
インディペンデントスタディ 文法・読解プレ1	プレ1
インディペンデントスタディ 文法・読解1	プレ1～1
インディペンデントスタディ 文法・読解2	1～2
インディペンデントスタディ 文法・読解3	2～3
インディペンデントスタディ 文法・読解4	3～4
インディペンデントスタディ 文法・読解5	4～5
インディペンデントスタディ 文法・読解6	5～6
インディペンデントスタディ 会話・聴解プレ1	プレ1
インディペンデントスタディ 会話・聴解1	プレ1～1
インディペンデントスタディ 会話・聴解2	1～2
インディペンデントスタディ 会話・聴解3	2～3
インディペンデントスタディ 会話・聴解4	3～4
プロジェクトワーク 書くA	3以上
プロジェクトワーク 書くB	プレ1～2
プロジェクトワーク 話すA	3以上
プロジェクトワーク 話すB	プレ1～2
上級日本語演習	5以上